

今回は、天津・無錫の様子を報告したい。

(1) 天津エコシティ

4月上旬、天津エコシティを再訪した。前回訪問は昨年8月だったので、約8カ月振りの訪問になる。前回訪問時は見渡す限りほぼ一面の埋め立て地だったエコシティもマンションが続々と建ちあがり、何となく町の姿をイメージできる程度になっていた。橋を渡ってエコシティの区画に入ると、大きな風力発電機や中央分離帯に設置された小型風車が海沿いの風に吹かれてくるくる回っているのが目につく。どの程度実際の発電に貢献しているのか不明だが、無機質な高層ビルと風車の組み合わせは未来都市に迷い込んだような不思議な雰囲気を醸し出している。



↑ エコシティ入口にあるモニュメント。シンガポールとの共同プロジェクトであることをうたっている。



← 姿を現しつつある街並み。(昨年 8 月訪問時は何もなかったが・・・)

今回のエコシティ訪問では、毎度のことながらその規模と「中国速度」に驚かされる一方、これまでとは多少違う雰囲気も感じた。多少違うというのは他でもない、マンションが売れ残っているのである。エコシティは温家宝総理肝入りのプロジェクトであり、シンガポール政府との協力で立ち上げているプロジェクトであるにもかかわらず、である。今回訪問したマンション販売センターでの話によると、エコシティ内のマンション価格は平米当たり 1 万 1 千元 (約 15 万円) からと天津市内の価格 (2~3 万元) の約半額に設定されている。更にこの価格には通常の中国のマンションが構造部だけの価格であるのに対して内装まで含んでいるので、実際にはかなり割安である。内装の水準は少なくとも私が見た感じでは日本のマンションと相違ない水準と思われた。



← 広くて清潔、機能的な内装も価格に含まれる。ただし色は選べない。

マンションの販売開始は昨年の10月からであるが、販売員によれば、全体の売れ行きは「だいたい4~5割」にとどまっているということだった。本来、エコシティは、「500m四方に全ての都市機能が集まる」という触れ込みで設計されており、それぞれのブロックごとに住宅、商店、会社及び関連する公共施設（学校、図書館等）が整備されることになっているが、こうした都市機能の整備は遅れている。また、エコシティまでは天津市内から約60kmあり、今後5年以内には天津市内から軌道が敷設される予定とは言うものの、現時点ではバス以外に公共交通機関はなく、自動車に頼るしかない。しかもこの高速道路は開発区を経由しているため大型トラックやバスが多く、料金所でも長時間の渋滞が発生しやすい。翌日意見交換した天津南開大学の先生もこうした点を挙げて「エコシティの人気のなさ」を説明してくれたが、それでもこれまでの中国であればこのような物件は即日完売していたのではないだろうか？

昨年来、中央政府が相次いで不動産価格引き締め策を講じるとともに、中央銀行もインフレ対策として相次いで金利の引き上げや預金準備率の引き上げを行っているが、そうした動きが値上がり一辺倒だった中国の不動産価格にもそろそろ影響を及ぼしているようにも思われる。同様に、先日、香港の産業界から「中国での発注先で、金融引締めの影響を受けて資金繰りが苦しくなっているところが増えており、発注の際に融資もあわせて行うようにしないと仕事を受けないところも出てきている。」との声も聞いており、こうした「金の流れ」の変化には今後一層注意していく必要があるように思われる。



↑ モデルルーム内の模型。各棟の上部にある標識はその棟が完売したことを示すが、今のところ全体の半分にも満たないようだ。

## (2) 無錫ユビキタスパーク

中国では 7 つの産業分野を「戦略性新興産業」と名付けてその育成に取り組むこととしているが、その中に「情報通信産業」が含まれている。江蘇省無錫市はこのうち「物連網」(Internet of Things) に重点的に取り組むこととしており、2009 年に全国で初めて「物連網」拠点に指定されている。今回、無錫市南東部にある「無錫ユビキタスパーク」を訪れたので以下簡単に紹介したい。

無錫市は人口約 800 万人、上海から新幹線(高速鉄道)でわずか 40 分に位置する中規模都市である。町の中心にはデパートが 3 軒ほど立ち並んでおり、中心となる「中山路」沿いには高級ブランドショップが軒を連ねている。無錫ユビキタスパークは無錫市中心から車で 30 分ほど離れた太湖沿いに設けられ、広さが 23 平方キロ、日本の横須賀市野比にある YRP(横須賀リサーチパーク)と提携関係にあるという説明であった。敷地内に中国の二大移動通信企業、「中国移動」と「中国聯通」、及び「国家电网」の研究センターがある点でも、NTT の研究所のある YRP に相似している。更に北京大学をはじめとする有名大学がパーク内に研究拠点を置いているほか、日本の東京大学も連絡オフィスを置いているという。



↑ 無錫ユビキタスパーク。奥の水色は「太湖」

無錫ユビキタスパークでは、「物連網」の構成要素である①センサー、②ネットワーク、③アプリケーションの 3 つの要素のうちセンサー技術に特に力を入れて技術開発を行っ

ているということで、具体的には上記研究機関による研究のほか、企業向けに 100 万元・1000 万元の 2 種類の補助金を用意し、公募提案型のプロジェクト採択を行っているようである。これまでに 79 のプロジェクトが採択され、さらにそのいくつかは規模を拡大して例えば無錫空港を利用したモデル実証試験を行うといった展開がなされているとのことだった。これらのプロジェクトの内容は、一般の買物や物流等の他に、高度な顔画像認識システムを利用しそれを防犯や社会管理に利用するというものが多く、中国の IT が社会の安定維持の道具として認知されていることを強く意識させられた。



↑ 国家級の研究者が長期間滞在して研究しているという「物連網研究中心」

(以上)